

国際社会における紛争解決と 葛藤解消に向けた学際統合型平和研究

(研究プロジェクト名：平和研究)

平成26年度～平成28年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

(大学の特色を生かした研究)

研究成果報告書

立命館大学“オール立命館による学際統合型平和研究拠点”

2017年3月

■ 研究代表者：本名 純

立命館大学・国際関係学部・教授

立命館大学・衣笠総合研究機構・国際地域研究所・所長

立命館大学“オール立命館による学際統合型平和研究拠点”・プロジェクトリーダー

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

**平成 26 年度～平成 28 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

1 学校法人名 学校法人 立命館 2 大学名 立命館大学

3 研究組織名 国際社会における紛争解決と葛藤解消に向けた学際統合型平和研究

4 プロジェクト所在地 京都市北区等持院北町 56-1

5 研究プロジェクト名 平和研究

6 研究観点 大学の特色を生かした研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
本名 純	国際関係学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 79 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
足立研幾	国際関係学部・教授	国際平和協力に関する主要概念の理論的検討	テーマ1の統括・国際政治学理論研究
山下範久	国際関係学部・教授	国際平和協力に関する主要概念の理論的検討	歴史社会学からの理論的検討
益田実	国際関係学部・教授	国際平和協力に関する主要概念の理論的検討	国際関係史からの理論的検討
中達啓示	国際関係学部・教授	国際平和協力に関する主要概念の理論的検討	国際関係史からの理論的検討
本名純	国際関係学部・教授	統括・地域紛争と葛藤の原因と発展力学	全体統括・立命館平和研究センター(仮称)の拠点形成を統括する
勝村誠	政策科学部・教授	地域紛争と葛藤の原因と発展力学	テーマ2の統括・日本政治史研究
文京洙	国際関係学部・教授	地域紛争と葛藤の原因と発展力学	韓国現代政治史・市民社会論
石川亮太	経営学部・准教授	地域紛争と葛藤の原因と発展力学	近代東アジア経済史・経済交流
末近浩太	国際関係学部・教授	地域紛争と葛藤の原因と発展力学	現代中東アジア政治史・中東政治論
金丸裕一	経済学部・教授	社会成熟と相互理解のパラダイム構築	テーマ3の統括・近現代中国史
金山勉	産業社会学部・教授	社会成熟と相互理解のパラダイム構築	日韓メディアシステム比較

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

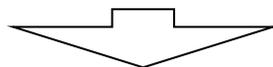
庵邊由香	文学部・教授	社会成熟と相互理解のパラダイム構築	朝鮮近現代史・歴史認識問題
鄭雅英	経営学部・教授	社会成熟と相互理解のパラダイム構築	中国朝鮮族研究・マイノリティ研究
秋葉武	産業社会学部・教授	社会成熟と相互理解のパラダイム構築	市民社会研究・NGO・NPO 論
佐々充昭	文学部・教授	社会成熟と相互理解のパラダイム構築	朝鮮近現代宗教史・現代韓国文化
石原直紀	国際関係学部・特任教授	国際平和協力政策の分析・評価・提言	テーマ4の統括・国際連合論
松田正彦	国際関係学部・教授	国際平和協力政策の分析・評価・提言	農業・農村開発からの分析・提言

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 年 月 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本プロジェクトは、平和協力政策の推進を学術的にバックアップする研究拠点を構築し、そのために必要な新たな研究パラダイム(新学術領域)を創成することを目指してきた。すなわち、異なる研究分野を融合して、紛争解決や平和協力政策に関する統合的な知の集積・創造・発信を進め、研究期間終了時には研究基盤として「立命館平和研究センター(Ritsumeikan Center for Peace Research: RCPR)」を発足させる。立命館大学は教学理念に「平和と民主主義」を掲げており、平和研究プロジェクトに対して学内の研究資金援助も積極的に展開している。本基盤形成はまさに立命館大学の学園戦略に沿うものである。本プロジェクト終了後に発足させる研究拠点は、政府機関、国際機関、市民団体、教育機関に対して平和協力政策を提言できる実践的な学術研究センターを目指す。本支援を受けて実施しようとする事業は、必要に応じて迅速に国際学術会議やミーティングを開催できるシステム整備を中心としている。

本プロジェクトの意義としては、①理論研究、②地域研究、③社会成熟研究、④政策研究による統合的な分析を、アジアを中心としながら幅広く実施し、平和協力政策を学術的にバックアップしていく本格的な研究拠点を立命館大学に形成して、現行の平和協力政策の問題点を克服することを目指すことにある。この研究拠点は、国際平和協力を担う政府機関のみならず、数ある NGO・市民団体や教育機関に対するシンクタンクの役割を果たすことで、市民社会・アカデミズム・政府という3つのトラックを橋渡しする戦略的な地位を確立する。

本研究の第一の目的は、西欧型の学術・理論研究の成果に立脚した現行の国際平和協力政策の限界を克服することにある。そのために、本プロジェクトでは現場の実情を正確に理解した地域研究の知見を重視し、従来の西欧ドナー中心のパラダイムとは一線を画した学術的・理論的な知見を創造していくことを目指す。第二の目的は、伝統的な「理論研究」と「地域研究」という2本の矢に対して、歴史・文化・哲学的認識からコミットする「社会成熟研究」という3本目の矢を加え、さらに「政策研究」という4本の矢を最後に加えるという手順で、研究体制を拡大再編していくことである。この新体制の実現により、政策志向型の学術発信基盤・蓄積機能を整え、①学術的なバックアップが弱い我が国の国際平和協力政策の屋台骨を支え、②多分野にわたる NGO の平和

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

協力活動に資する政策的・理論的知見を提供する、という社会的要請への先駆的な対応を本学がリーダーシップを取って進めて行く。本研究によって、新たな国際平和協力政策のアプローチ(例えば、日本が得意としてきた現地住民の主体性を重視した援助や人材育成)が学術的・理論的に一般化され、そしてそれが日本の NGO・市民団体や行政機関、教育機関のイニシアティブに反映されることによって、現行の西欧型学術理論に基づく政策の問題点克服に貢献して行くことができる。本プロジェクト研究が、シンクタンクとしての役割を果たすと同時に、国際平和協力の「知の集積」を行うことは極めて独創的である。国際平和協力政策のアーカイブ化を行うという本研究構想は、日本初の試みである。その際、連携のパートナーとなる国際平和ミュージアムは、長年に渡って「戦争の記憶」を集積して来た経験を有しており、本構想を進めるうえで重要な研究資源となる。

本研究の実施によって、4つの方向で研究効果が期待できる。

①学術的貢献:理論研究・地域研究・社会成熟研究・政策研究という4本の矢による統合知を構築することにより、平和研究の領域に政策志向の新しい研究スタイルを生み出すことが期待される。

②知の集積＝アーカイブ化による貢献:政府や NGO が実施する国際平和協力政策から得られる様々な教訓や知見を、本研究基盤に集積することにより、将来有効に活用され得るようにできる。

③政策的貢献:本研究を通じた学術基盤の構築により、地域研究による各地の事例分析に裏打ちされた理論と実践の組み合わせを提供する。それによって、今後の国際平和協力政策を豊かにし、国際的発信能力を高めることが期待される。

④社会的貢献:国際平和協力 NGO などの市民団体に地域理解のための学術的情報や政策の理論的背景などを伝え、彼らの活動を知的にサポートするシンクタンクとして貢献することが期待される。また、本学の国際平和ミュージアムと連携した発信活動を通じて、学生や一般向けにも紛争と平和協力について考えて貰える機会を提供することができる。

また計画の概要としては、まず初年度(平成 26 年度)には、1)立命館平和研究センターの発足に向けて随時国際学会会議が開催できる研究インフラを整備する。2)各チームリーダーを中心に、メンバー全体により本プロジェクトの基本的な分析視点と探索的な論点の共有をはかる。3)国内・海外の研究ネットワークの充実をはかる。4)国際ワークショップを実施し、海外連携先の研究者や実務者を招いて、日本の国際平和協力政策の可能性を探る。

平成 27 年度は、初年度に引き続き、日常的な研究と全体研究会を継続して実施していくことに加え、前期に第二回目の国内ワークショップを実施して、NGO に対するシンクタンク的な役割を担っていくために必要な政策提言を具体的にアジェンダ化する。

最終年度となる平成 28 年度においては、研究成果の発信として、メンバーが参加する叢書の作成に取り組む。その過程で、前期に国内シンポジウム、後期に国際シンポジウムを開催する。

(2) 研究組織

本プロジェクトは、それぞれの研究テーマに即して、①理論研究チーム(4名:リーダー・足立研幾)、②地域研究チーム(5名:リーダー・勝村誠)、③社会成熟チーム(6名:リーダー・金丸裕一)、④政策研究チーム(3名:リーダー・石原直紀)の4つの研究チームで構成される。

基盤として強く意識しているのは、この4チームが議論し、研究成果を分かち合い、相互に影響を与えながら総体としてオリジナリティーが生まれる研究環境を作ることである。これらの言わば「4本の矢」のそれぞれが、個別の研究課題に関して専門的な調査を行い議論を深めていき、それらの4本を統合することで可能になる研究成果の発信を重視する。

基盤全体を②に所属する本名純が統括する。運営については、定期的に統括者とチームリーダーの4人によるリーダー会議を開催して、研究の方向性と問題意識を確認し、全体に伝達する。また、各種の共同研究会を奨励していく。

(3) 研究施設・設備等

創思館カンファレンスルーム

通訳システム(創思館カンファレンスルーム)

通訳機器(創思館カンファレンスルーム)

通訳システム一式(学而館研究会室)

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<優れた成果が上がった点>

成果は多岐に渡るが、第一に、平和構築の国内外の著名な研究者を集め、数々の国際シンポジウムを開催

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

した。3年間で行った国際シンポジウムは以下の通りである。

- ①シンポジウム『「人間の安全保障」の行方—20年の経験と課題から』日時:2015年1月21日(水)、22日(木)、場所:創思館カンファレンスルーム *1
- ②国連創設 70 周年記念シンポジウム「新たなパートナーシップの形成を目指して—国連、NGO、大学間の連携」日時:2015年10月18日(日)9:30~17:00、場所:創思館カンファレンスルーム *2
- ③国際シンポジウム「アジアにおける平和構築の取り組み—アジア的平和構築モデルはあるのか」日時:2016年10月29日(土)・30日(日)、場所:創思館カンファレンスルーム *3

これら3つの国際シンポジウムを通じて、本平和研究拠点のプレゼンスを国内外に示した。これらのイベントをきっかけに、国際共同研究が数多く進みつつある。

第二の優れた成果としては、オーラルヒストリーの記録収集と刊行が挙げられる。拠点形成の柱の一つである国際平和協力実務者のオーラルヒストリーを実施してきた。山崎裕元警察大学校長および池田維元ブラジル大使へのインタビューを計 21 回行い、その貴重な証言を記録した。池田大使へのインタビューを、中央公論新社から『激動のアジア外交とともに—外交官の証言』(2016)として刊行した。山崎氏のオーラル・ヒストリーも出版予定である。

第三に、日常的な研究会を通じて、国内外の研究者とのネットワークの構築が推進された。2014~2016年の間に、最先端の研究を行っている国内外の研究者を招聘した研究会を計 106 回開催した。また、同期間に、若手研究者の発掘と育成を目的とした若手研究者による研究会を計 29 回実施した。

第四に研究成果の刊行が挙げられる。例えば単著の出版を挙げれば、山根健至『フィリピンの国軍と政治—民主化後の文民優位と政治介入』法律文化社 2014 年; 足立研幾『国際政治と規範—国際社会の発展と兵器使用をめぐる規範の変容』有信堂高文社 2015 年*4 ; 益田実『冷戦史を問いなおす —「冷戦」と「非冷戦」の境界』共著ミネルヴァ書房 2015 年*5; 文京洙『新・韓国現代史』岩波書店 2015 年*6; 石川亮太『近代アジア市場と朝鮮』名古屋大学出版会 2016 年*7、クロス京子『移行期正義と和解—規範の多系的伝播・受容過程』有信堂高文社 2016 年; 山下範久、安高啓朗、芝崎厚史『ウェストファリア史観を脱構築する』ナカニシヤ出版 2016 年*8; 勝村誠(監修・翻訳)『安重根と東洋平和論』日本評論社 2016 年*9; Agus Trihartono, *The Evolving ASEAN Security Community: Background and Rationales*, Lambert Academic Publishing: Germany (2016)などがある。

第五に、本プロジェクトで雇用した若手研究者の育成が挙げられる(雇用原資は、立命館グローバル・イノベーション研究機構研究プログラム)。本プロジェクトから多くの若手研究者が就職していった。例えば、山根健至(雇用期間 2014 年 4 月 1 日~2014 年 9 月 30 日)は 2014 年 10 月より福岡女子大学に就職した。村上友章(雇用期間 2014 年 4 月 1 日~2015 年 3 月 31 日)も 2015 年 4 月より三重大学に就職した。クロス京子(雇用期間 2014 年 4 月 1 日~2016 年 3 月 31 日)は 2016 年 4 月より本学国際関係学部に就職した。Agus Trihartono(雇用期間 2014 年 1 月 1 日~2017 年 3 月 31 日)は 2017 年 5 月よりインドネシア・ジュンブル大学講師に就職した。佐々木葉月(雇用期間 2016 年 4 月 1 日~2017 年 3 月 31 日)は 2017 年 6 月から熊本大学特任助教に就任した。森類臣(雇用期間 2012 年 4 月 1 日~2017 年 3 月 31 日)は 2017 年 4 月から大谷大学任期制助教に就職した。裴始美(雇用期間 2011 年 4 月 1 日~2017 年 3 月 31 日)は 2017 年 4 月から大阪大学任期制准教授に就職した。

第六に、本プロジェクトに関連して、他の大型研究プロジェクトの採択にも成果があった。例えば、末近浩太(代表)科学研究費補助金[新学術領域研究(研究領域提案型)](H28-H33)「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」計 9880 万円、末近浩太(代表)科学研究費補助金[基盤研究(B)](H28-H31)「現代中東におけるイスラーム主義運動の動向と政治的帰結に関する比較理論研究」計 1469 万円、益田実(代表)科学研究費補助金[基盤研究(B)](H26~H28)「同盟政治・脱植民地化・文化的変容—三つの

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

軸から捉え直す新しい冷戦史」計 1240 万円、などが挙げられる。

<課題となった点>

課題となった点は、本研究プロジェクト終了後の発展ビジョンである。「次のかたち」は平和政策研究センターの立ち上げであるが、その実現には至っていない。

<自己評価の実施結果と対応状況>

毎年度半期ごとに自己評価を行った。第 1 グループから第 4 グループごとに研究成果を取りまとめ研究の進捗確認を実施した。第 1 グループ「国際関係：国際平和強力にかかわる主要概念の理論的再検討」、第 2 グループ「地域研究：グローバル化で複雑化する紛争の下人と発展力学をローカルな視点から分析」、第 4 グループ「政策研究：国際平和協力にかかわる政策の分析・評価・提言」が連携しアジアの紛争に焦点を当てた平和構築など、第 2 グループと第 3 グループ「成熟社会：相互理解のパラダイム」が連携し東アジアにおける相互理解と平和構築など、研究会やワークショップ、シンポジウムを開催し、グループを跨ぎ相互に進捗管理、補完してきた。立命館グローバル・イノベーション研究機構に半期に 1 回、研究進捗状況・成果の報告を行い、研究成果の創出状況について確認を行っており、適宜若手育成等の課題について、アドバイスを受けてきた。

<外部（第三者）評価の実施結果と対応状況>

田中明彦氏（前独立行政法人国際協力機構・理事長、東京大学東洋文化研究所・教授）から、日本の平和構築政策の独自性を追求する本プロジェクトの研究主旨は興味深く重要である、リザル・スクマ氏（現インドネシア駐英大使）からは、本プロジェクトのような政策拠点が日本に定着すれば日本と ASEAN の関係強化に大きく貢献する可能性があるとの評価を得て、研究グループの連携による、異なる研究分野の融合を進めた。

本研究プロジェクトが所属する、立命館グローバル・イノベーション研究機構では、本機構における運営課題や戦略等について、優れた見識や知識、経験による幅広い助言や協力を得るために「アドバイザリーボード」を設置し、年 1 回会合を開催している（委員は学外者）。本拠点については、「我々は普遍的価値の実現を望む一方で、その普遍的な価値が実現されないという現実と直面している。その実現を阻む一因である原理主義を否定するのではなく、彼らも加えて議論を重ねないことには問題解決は困難である」という課題を挙げられた。この課題に対し、第 2 グループの末近が科学研究費・新学術領域研究（研究領域提案型）に採択され（研究期間：2016 年度～2020 年度）、計画研究代表として、紛争や内戦などの結果として起こる「国家破綻」の実態、およびその権力の空白に出現する非国家主体やその越境的なネットワークの実態分析を通して、その発生原因、展開過程、国際政治における意味と意義を分析することを目的とした研究を本プロジェクトと連携して進めている。

<研究期間終了後の展望>

この研究期間を通じて、国際的な研究交流が大きく前進し、国内外に本学の平和研究イニシアティブをアピールしてきた。プロジェクト終了後に、その発信力を持続していくための新たな研究拠点が必要であり、その構築に向けて、引き続き学内外の支援を求めていく。

<研究成果の副次的効果>

教育効果が想像以上に高いことを学んだ。プロジェクトを通じて数多くの研究会を開催したが、そこでの議論が院生の研究ビジョンに大きく影響することが多々あった。これは副次的な効果だと思われる。

12 キーワード（当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。）

- | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|
| (1) <u>平和政策</u> | (2) <u>国際関係</u> | (3) <u>紛争</u> |
| (4) <u>葛藤</u> | (5) <u>和解</u> | (6) <u>暴力</u> |
| (7) <u>政治</u> | (8) _____ | |

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

【第1グループ「国際関係:国際平和協力にかかわる主要概念の理論的再検討」】

No.	著者名	論文名	査読	掲載誌名(巻)	頁	発表年月
1	足立研幾	毒禁止規範から化学兵器禁止規範へ—『変容し続ける規範』という分析視角による事例研究	有	グローバル・ガバナンス(2)	pp.1-14	2015年12月
2	Adachi, Kenki	Development of Conventional Weapons Governance: NGOs, Policymakers, and Gatekeepers in Institutional Interplay	有	Cosmopolis(11)	pp.	To be published
3	足立研幾	セキュリティ・ガバナンス論の新地平	無	立命館大学人文社会科学研究所紀要	pp.1-6	2016年3月

【第2グループ「地域研究:グローバル化で複雑化する紛争の原因と発展力学をローカルな視点から分析」】

No.	著者名	論文名	査読	掲載誌名(巻)	頁	発表年月
4	本名純	インドネシアの選挙政治における排他的ナショナリズム—2014年プラボウォの挑戦	有	アジア研究(61:4)	pp.22-41	2015年11月
5	勝村誠	「安重根義士の東洋平和論と東北アジア平和共同体の模索」(韓国語)、都時煥ほか『韓日協定50年の再照明Ⅴ—韓日協定50年の省察と平和共同体の模索』	有	歴史空間	pp.395-419	2016年10月
6	石川亮太	개항기 부산의 일본인 상인과 부산수산회사(開港期釜山の日本人商人と釜山水産会社)	有	民族文化研究(69)	pp.417-463	2015年11月
7	石川亮太	一八八〇年代の紅蔘対清輸出と華商—裕増祥事件を通じて	有	朝鮮史研究会論文集(53)	pp.83-113	2015年10月
8	石川亮太	화교 화인의 시점에서 본 아시아 속 조선 개항(華僑・華人の視点から見たアジアの中の朝鮮開港)	有	歴史批評(114)	pp.82-112	2016年3月
9	石川亮太	朝鮮開港をどう考えるか:拙著『近代アジア市場と朝鮮:開港・華商・帝国』に寄せて	有	News letter(近現代東北アジア地域史研究会)(28)	pp.72-79	2016年12月
10	本名純	民主化の成功」という国際評価の罫—インドネシアの政治から見えてくるもの	無	Synodos	online	2014年4月
11	本名純	2014年インドネシア政変—ヘビメタ大統領ジョコウィの誕生と新しい風	無	Synodos	online	2014年8月
12	本名純	「インドネシア・ジョコウィ政権の外交ビジョンと「アジア太平洋」日本国際問題研究所『インド太平洋時代の日本外交—スイング・ステーツへの対応』	無	平成26年度外務省外交・安全保障研究事業	pp.77-89	2015年4月
13	本名純	ユドヨノの10年にみる国内安全保障と治安機関の政治	無	アジア研ワールド・トレンド(241:11)	pp.22-24	2015年11月
14	本名純	コラム:インドネシア・ジョコウィ政権の外交—理念と困難	無	政策研究大学院大学	online	2015年10月
15	本名純	アジアにおける「イスラム国」の浸透	無	外交(38)	pp.129-135	2016年7月
16	末近浩太	異なる何か/誰かに触れる:中東地域研究の魅力とは(高校生のための教養入門)	無	Synodos	online	2014年6月
17	末近浩太	現代の中東政治・イスラームに関する研究資料:研究動向・ニーズ・出版事情	無	アジア情報室通報(12:3)	pp.2-6	2014年9月

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

18	末近浩太	序論 中東の政治変動:開かれた『地域』から見る国際政治	無	中東の政治変動(国際政治第178)	pp.1-14	2014年11月
19	末近浩太	台頭するイスラム主義運動:中東政治の行方を左右	無	週刊エコノミスト	pp.77-79	2014年11月
20	末近浩太	ガンダム、中東政治、シリア「内戦」(特集 アニメ!)	無	αSYNODOS	p.160	2014年11月
21	末近浩太	暴力と憎しみのなかで何を語るべきか:シリアからフランス、日本へ	無	現代思想(総特集 シャルリ・エブド襲撃/イスラム国人質事件の衝撃)	pp.204-210	2015年2月
22	末近浩太、 吉川卓郎、 横田貴之	“Re-Configured Islamist Geopolitics after the Arab Spring: Emergence of New Islamic Community in Muslim Brotherhood’s International Nexus,” Takayuki Yokota ed., <i>Revisiting Islamism in the Middle East after the “Arab Spring”</i>	無	SIAS Working Paper Series No. 25	pp.57-79	2015年3月
23	末近浩太	『帝国崩壊』の長い過程にある中東・イスラム圏と、どう向き合うか	無	日本再生	p.433	2015年6月
24	末近浩太	正しい理解と実態に則した活動を(特集 手探りの中東支援:明日への希望を求めて)	無	国際開発ジャーナル(703)	p.23	2015年6月
25	末近浩太	「イスラム主義の思想を原典から読み解く:勇気ある出版を称えたい(高岡豊・溝渕正季訳・解説『ヒズブッラー:抵抗と革命の思想』現代思潮新社,2015年)を読む」	無	図書新聞(3213)	p.1	2015年11月
26	末近浩太	レバノン:「決めない政治」の行方(特集 中東地域の現実と将来展望)	無	アジア研ワールド・トレンド(256)	pp.12-13	2017年1月

【第3グループ「成熟社会:相互理解のパラダイム構築」】

No.	著者名	論文名	査読	掲載誌名(巻)	頁	発表年月
1	金丸裕一	我曾邂逅過的近代史研究所档案館	有	近史所一甲子-同仁憶往録(下冊)	pp.230-232	2015年2月
2	金丸裕一	戦時日本技術者の「楽観論」-以中国電力産業調査為例	有	立命館経済学(64:6)	pp.149-169.	2016年3月
3	金丸裕一	淺談近代東亞的領土概念	有	立命館経済学(64:4)	pp.88-92	2016年2月
4	金丸裕一	日中戦争時期所談論的中国-神職人員眼中的他者眼像,「近代東亞國際視闡下的基督教教育與文化認同論文集」	有	復旦大学中華文明國際研究中心	pp.93-119	2016年9月
5	金丸裕一	賀川豊彦の中国-語られ方/語り方	有	キリスト教文化,2016年春(通巻7)	pp.39-54	2016年5月
6	金丸裕一、 乾暢之	『揚子江』総目次(1)	有	立命館経済学(65:2)	p.3	2016年11月
7	金丸裕一	棟方文雄「聖戦と教会」の歴史的背景	有	ユークロン(238)	pp.82-98	2016年12月
8	金丸裕一、 乾暢之	『揚子江』総目次(2)	有	立命館経済学(65:3)	p.2	2016年12月
9	金丸裕一	中国における賀川豊彦評価をめぐって-1920年から1949年の事例研究	有	立命館経済学(65:6)	pp.189-208	2017年3月
10	鄭雅英	在日中国朝鮮族のアイデンティティー—エスニシティの社会学的アプローチから	有	朝鮮族研究学会誌(6)	pp.32-46	2016年10月
11	秋葉武	「長寿島」の研究—奄美・与論島を事例として	有	立命館産業社会論集(50:3)	pp.3	2014年12月
12	金丸裕一	戦時日本専断視野下的中国電力産業	無	社会群体視覚下的抗日戦	pp.140-153	2015年7月

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

				争與中国社会国際学術研 討会論文集		
13	金丸裕一	賀川豊彦関係中国語文献目録(初稿)－1920 年～1949年－	無	立命館経済学(65:1)	pp.93-118	2016年8月
14	金丸裕一 他5名	『はじめての中国キリスト教史』を読む方々へ	無	『はじめての中国キリスト教 史』かんよう出版	pp.6-9	2016年8月
15	金山勉	新聞の低迷、ジャーナリズム教育に暗い影	無	メディア展望(628)	p.33	2014年4月
16	金山勉	米国人高齢者へIT利用が浸透	無	メディア展望(629)	p.23	2014年5月
17	金山勉	大転換の時期迎えた米TV事業	無	メディア展望(636)	p.32	2014年12月
18	金山勉	海外メディア事情:FCC, 大変革の予感	無	月刊民放	pp.38-39	2014年6月
19	金山勉	「137億年の歴史を知るために(9)文明の興 亡」, クリストファー・ロイド(英語原著者)	無	究(45)	pp.2-3	2014年12月
20	金山勉	「137億年の歴史を知るために(8)文明の夜明 け 歴史物語のはじまり」, クリストファー・ロイド (英語原著者)	無	究(44)	pp.2-3	2014年11月
21	金山勉	テレビ広告増がネットビジネスに好影響	無	メディア展望(635)	p.21	2014年11月
22	金山勉	「137億年の歴史を知るために(13)世界の行方 を考える」, クリストファー・ロイド(英語原著者)	無	究(49)	pp.2-3	2015年4月
23	金山勉	137億年の歴史を知るために(12)創造のパン ゲア大陸がもたらしたもの」, クリストファー・ロ イド(英語原著者)	無	究(48)	pp.2-3	2015年3月
24	金山勉	海外メディア事情:優先されるべき『思想の自由 市場』	無	月刊民放	pp.42-43	2015年3月
25	金山勉	米の既存メディア, 地盤沈下続く	無	メディア展望(639)	p.26	2015年3月
26	金山勉	米高齢者のFB利用が顕著な伸び	無	メディア展望(638)	p.34	2015年2月
27	金山勉	「137億年の歴史を知るために(11)世界の 新秩序を目指して」, クリストファー・ロイド(英語原 著者)	無	究(47)	pp.2-3	2015年2月
28	金山勉	既存メディアと非営利編集者の協働の道	無	メディア展望(637)	p.19	2015年1月
29	金山勉	「137億年の歴史を知るために(10)グローバ ルの起源」, クリストファー・ロイド(英語原著者)	無	究(46)	pp.2-3	2015年1月

【第4グループ「政策研究:国際平和協力にかかわる政策の分析・評価・提言」】

No.	著者名	論文名	査読	掲載誌名(巻)	頁	発表年月
30	松田正彦	農村は変わったかーミャンマー地方点描	無	アジア研ワールド・トレンド (221)	pp.32-35	2014年3月
31	松田正彦	ミャンマーの農業と農村開発にみられる変化と展望	無	熱帯農業研究(7:2)	pp.70-72	2014年12月

<図書>

【第1グループ「国際関係:国際平和協力にかかわる主要概念の理論的再検討」】

No.	著者名	図書名	出版社名	総頁数/担当頁	発行年月
1	足立研幾 *4	国際政治と規範—国際社会の発展と兵器使用をめ ぐる規範の変容	有信堂	pp.235	2015年1月

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

2	足立研幾	「軍縮辞典」,(項目執筆)	信山社	pp.560	2015年10月
3	足立研幾	「平和と安全保障を考える辞典」,(編集委員)	法律文化社	pp.712	2016年3月
4	足立研幾	「ブレリユード国際関係論」,(共著)	東信堂	pp.312	2016年4月
5	足立研幾	“Norm Antipreneurs: The Politics of Resistance to Global Normative Change.”(共著)	Routledge	pp.53-70	2016年8月
6	足立研幾	“Resisting the Ban on Cluster Munitions” <i>Norm Antipreneurs: The Politics of Resistance to Global Normative Change</i>	Routledge	pp. 53-70	2016年10月
7	足立研幾	『現代国際政治の基礎知識』項目執筆(「ガヴァナンス」「コンストラクティヴィズム」「レジーム」)	有斐閣	pp.1-12	2017年3月
8	足立研幾	「国際政治における市民社会組織—世界政府なき統治の最前線」,坂本治也編『市民社会論の最前線』	法律文化社	pp.241-257	2017年2月
9	益田実 *5	『冷戦史を問いなおす —「冷戦」と「非冷戦」の境界』,(共著)	ミネルヴァ書房	pp.434	2015年12月
10	山下範久 *8 安高啓朗 芝崎厚史	ウェストファリア史観を脱構築する(共編)	ナカニシヤ出版	pp.268	2016年8月

【第2グループ「地域研究:グローバル化で複雑化する紛争の原因と発展力学をローカルな視点から分析」】

No.	著者名	図書名	出版社名	総頁数/担当頁	発表年月
10	本名純	「越境組織犯罪の脱安全保障化に向けて—東南アジアの人身取引対策にみる国家と市民社会のせめぎあい」,『21世紀の政治と暴力—グローバル化、民主主義、アイデンティティ』	晃洋書房	pp.103-127	2015年2月
11	本名純	「ウイド政権の誕生—選挙政治と権力再編」『新興民主主義大国インドネシア—ユドヨノ政権の10年とジョコウィ大統領の誕生』,アジ研選書40	アジア経済研究所	pp. 95-125	2015年11月
12	本名純	“Contextualizing Global Governance of Counterterrorism: ASEAN-Japan Cooperation in Southeast Asia,” <i>Navigating Change: ASEAN-Japan Strategic Partnership in East Asia and in Global Governance</i>	Japan Center for International Exchange	pp. 293-301	2015年12月
13	本名純	「非伝統的安全保障」山本信人編『東南アジア地域研究入門 3政治』	慶応義塾大学出版会	pp. 219-234	2017年2月
14	末近浩太	『比較政治学の考え方(スタディア)』,(共著)	有斐閣	pp.290	2016年1月
15	末近浩太	「分断社会における国軍の相貌:レバノンにおける国民統合と国家建設のトレード・オフ」『途上国における軍・政治権力・市民社会:21世紀の「新しい」政軍関係』	晃洋書房	pp. 168-193	2016年3月
16	末近浩太	「中東の地域秩序の変動:「アラブの春」,シリア「内戦」,そして「イスラーム国」へ」『融解と再創造の世界秩序(「関連地域研究」第2巻)』	青弓社	pp. 49-73	2016年3月
17	末近浩太	「イスラーム主義運動の歴史的展開:中東/地域研究におけるその意義を捉え直す」『中東の新しい秩序(「グローバル・サウスは今」第3巻)』	ミネルヴァ書房	pp. 41-58	2016年5月

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

18	末近浩太	『現代の紛争』『プレリユード国際関係学』	東信堂	pp. 103-124	2016年3月
19	末近浩太	『イスラーム主義運動の歴史的展開: 中東地域研究におけるその意義を捉え直す』『中東の新たな秩序(グローバル・サウスは今 第3巻)』	ミネルヴァ書房	pp. 41-58	2016年5月
20	末近浩太	『イスラームとデモクラシーをめぐる議論』私市正年・浜中新吾・横田貴之編『中東・イスラーム研究概説: 政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマ』	明石書店	pp. 19-28	2017年3月
21	勝村誠	『済州4・3事件真相調査報告書<日本語版>』	済州4・3事件真相報告書作成企画団, 済州4・3事件真相究明及び犠牲者名誉回復委員会	pp.329-355	2014年12月
22	勝村誠 *9	『安重根と東洋平和論』(編著: 李泰鎮 安重根ハルビン学会、監訳: 勝村誠 安重根東洋平和論研究会)	日本評論社	pp.44-76, pp.387-398	2016年9月
23	石川亮太 *7	『近代アジア市場と朝鮮』	名古屋大学出版会	pp.568	2016年3月

【第3グループ「成熟社会: 相互理解のパラダイム構築」】

No.	著者名	図書名	出版社名	総頁数/担当頁	発表年月
24	金丸裕一	『賀川豊彦関係中国語雑誌・新聞記事史料(暫定版)』(編著)	立命館大学経済学部 金丸裕一研究室	総頁数	2016年6月
25	金丸裕一	『矢内原忠雄と『帝国主義下の台湾』』, 『赤松美和子・若松大祐編著『台湾を知るための60章』』	明石書店	pp. 64-66	2016年8月
26	金山勉	『21世紀スポーツ大事典『スポーツとインターネット』』中村敏雄, 高橋健夫, 寒川恒夫, 友添秀則(編集主幹)	大修館書店	pp.768-771	2015年1月
27	庵逄由香	『植民地初期の朝鮮農業 植民地近代化論の農業開発論を検証する』	明石書店	pp.352	2016年4月
28	庵逄由香	『帝国支配の最前線: 植民地(地域のなかの軍隊7)』, (共編)	吉川弘文館	pp.305	2015年4月
29	庵逄由香	『アジア太平洋戦争辞典』, (項目執筆)	吉川弘文館	pp.858	2015年10月
30	文京洙	『在日朝鮮人 歴史と現在』, (共著)	岩波新書	pp.272	2015年1月
31	文京洙 *6	『新・韓国現代史』	岩波新書	pp.288	2015年12月
32	文京洙	『在日朝鮮人からみる日韓関係—(国民)を超えて』『日韓関係史 1965-2015』	東京大学出版会	pp.61-84	2015年10月
33	秋葉武	『韓国の社会的企業』, 『社会的企業論: もうひとつの経済』	法律文化社	pp.138-149	2014年10月

【第4グループ「政策研究: 国際平和協力にかかわる政策の分析・評価・提言」】

No.	著者	図書名	出版社名	総頁数/担当頁	発表年月
34	松田正彦	『紫煙がつなぐ平原と高原』(第2部 植物からモノへ タバコ→巻き煙草), 『ものどくらしの植物誌—東南アジア大陸部から』	臨川書店	pp. 112-130	2014年5月
35	松田正彦	『ミャンマー国境域』(第1部 国境域の特徴), 『国境と少数民族』	めこん	pp.25-32	2014年8月

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

36	松田正彦	「ミャンマーと中国の国境域—豊かな農村のつくりかた」(第 2 部 生業), 『国境と少数民族』	めこん	pp.65-94	2014 年 8 月
37	松田正彦	「ポスト軍政期の開発援助—地域開発とローカル NGO にみる変化から」『ポスト軍政のミャンマー—改革の実像』	アジア経済研究所	pp. 133-156	2015 年 11 月
38	松田正彦	Sustainable farming systems in Myanmar: The implications of findings from field surveys in the 2000s” <i>The Myanmar Economy: Its Past, Present and Prospect</i>	Springer	pp. 131-153	2016 年

＜学会発表：海外での発表＞

【第 1 グループ「国際関係：国際平和協力にかかわる主要概念の理論的再検討」】

No.	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
1	足立研幾	Deter and Socialize: The Role of the United States in Asia-Pacific	United States Foreign Policy in International Perspective	ニューデリー, インド	2014 年 10 月
2	足立研幾	Resisting the Ban of Cluster Munitions: Tug-of-War between Norm Entrepreneurs and Norm Antipreneurs	International Studies Association 56th Annual Conference	ニューオリンズ, 米国	2015 年 2 月

【第 2 グループ「地域研究：グローバル化で複雑化する紛争の原因と発展力学をローカルな視点から分析」】

No.	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
3	本名純	The Role of Party Elites in Shaping the Presidential Election in 2014	The Indonesian Elections 2014	シンガポール	2014 年 10 月
4	本名純	Deepening Indonesia-Japan Security Cooperation in the Age of ASEAN Community Building Indonesia-Japan Security Dialogue	Center for Strategic and International Studies	ジャカルタ, インドネシア	2015 年 6 月
5	本名純	How Japan Looks Indonesia 2015	Conference on Indonesian Foreign Policy (CIFP)	ジャカルタ, インドネシア	2015 年 6 月
6	本名純	Responses of Indonesia's Security Sector to Climate Change Challenges and the Political Economy of the Military in Indonesia	Regional Conference on The Impact and Implications of Climate Change: Strategies and Security for ASEAN Member States, Cambodian Institute for Cooperation and Peace	プノンペン, カンボジア	2015 年 7 月
7	本名純	Post-Conflict Consolidation of Peace in Aceh, Indonesia	Institute of Peace and Unification Studies	ソウル, 韓国	2016 年 8 月
8	Jun Honna	Reinventing a New Indonesia-Japan Relationship in the Age of Globalism	Center for Research in Social Sciences and Humanities, University of Jember	ジェンベル, インドネシア	2016 年 9 月
9	末近浩太	Re-Configured Islamist Geopolitics after the Arab Spring: Emergence of New Islamic Community in Muslim Brotherhood's International Nexus	ISA PDG-Collegium Civitas Joint Eurasia Conference	ワルシャワ, ポーランド	2014 年 8 月
10	末近浩太	Reconfiguring Sectarian and National Identities in Lebanon: The Case of the Lebanese Armed Forces (LAF),” Session 85 “Moving Beyond the Primordialist-Constructivist Divide: How Does Sectarianism/Communalism Actually Work in Iraq, Lebanon, and Beyond?”	The Fourth World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES)	アンカラ, トルコ	2014 年 8 月
11	末近浩太	Nation Building and National Army in Deeply Divide Society: A Case of Lebanon	ISA Global South Caucus Conference	シンガポール	2015 年 1 月

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

12	末近浩太	Prospects for Syria: Towards the End of the Crisis	International Symposium on "State Security and National Integration in the Middle East: Prospects for Syria"	テヘラン, イラン	2016年2月
13	末近浩太	Japan's Foreign Policy towards the Non-Oil Producing Countries in the Middle East	Rafik Hariri Center for the Middle East, Atlantic Council Conference	ワシントン DC, 米国	2016年3月
14	末近浩太	A New Authoritarian Alliance over the Muslim Brotherhood? Egypt's anti-Islamist Foreign Policy and Re-formation of the Arab Security Alliance	CEEISA-ISA 2016 Joint Conference	リュブリャナ, スロベニア	2016年6月
15	末近浩太	The Rise of the Pan-Shiites Militia Network: Hizballah's Military Intervention in the Syrian Conflict(s)	BRISMES Annual Conference 2016	ウェールズ, 英国	2016年7月
16	末近浩太	Redefining 'Resistance': Hizballah's Military Intervention in the Syrian Conflict and its Consequences	The 5th International Forum on Asia and the Middle East	上海, 中国	2016年9月
17	石川亮太	1880年代釜山日本租界の中国人居住問題: 開港場をめぐる移動と制度の相克	2014 東アジア海港都市国際学術会議: 海域世界における移住とコミュニティ	釜山, 韓国	2014年11月
18	石川亮太	近代大阪の朝鮮米流通: 商人と商人団体を中心に	産業史研究会	韓国	2014年11月

【第3グループ「成熟社会: 相互理解のパラダイム構築」】

No.	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
19	金丸裕一	中央研究院近代史研究所學術演講會	近代史研究與話語／概念: 現代歴史思維的陷阱	台北, 台湾	2014年4月
20	金丸裕一	日本的基督教の中の賀川豊彦—「大東亜戦争」支持の論理構造	アジアキリスト教交流史研究会 ソウルセミナー	ソウル, 韓国	2016年9月
21	金丸裕一	信仰和侵略-戦時日本基督教界言論評析	中国社会科学院近代史研究所 2016年第19期學術論壇	北京, 中国	2016年12月
22	秋葉武	日本のシニアの社会参加/社会貢献の多様化	韓日シンポジウム「シニアの社会参加」	ソウル, 韓国	2014年6月
23	秋葉武	日本のソーシャル・ビジネス	2014 グローバル社会的企業シンポジウム	釜山, 韓国	2014年7月
24	秋葉武	Sharing Economy in Japan	Global Social Economy Forum 2014	ソウル, 韓国	2014年11月
25	佐々充昭	「近代 日本の 大아시ヤ主義와 大同思想—『満洲国』의 王道主義를 中心으로 (韓国語)」	韓中日国際学術大会: グローバル時代韓国的価値と文明研究—東アジア大同思想と平和共同体	全羅北道, 韓国	2015年10月

【第4グループ「政策研究: 国際平和協力にかかわる政策の分析・評価・提言」】

No.	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
26	石原直紀	keynote speech	the 6th International Conference on Sustainable Future for Human Security	バリ, インドネシア	2015年11月

<学会発表: 国内での発表>

【第1グループ「国際関係: 国際平和協力にかかわる主要概念の理論的再検討」】

No.	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
1	足立研幾	「パワーシフトと軍縮・軍備管理レジーム」	日本国際政治学会	福岡県福岡市	2014年11月
2	足立研幾	「グローバル・ガバナンス論再考—規範研究の視点から」	グローバル・ガバナンス学会	愛知県名古屋氏	2015年4月

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

3	足立研幾	「紛争解決・平和構築をめぐる多層的セキュリティ・ガバナンスの探求」	日本国際政治学会、平和研究分科会	千葉県千葉市	2016年10月
4	益田実	「冷戦史研究の近年の動向と冷戦像をめぐる議論」	日本国際政治学会 2014 年度研究大会	福岡県福岡市	2014年11月
5	山下範久	「ウェストファリア史観を脱構築する：言説、理論、歴史」	日本国際政治学会 2014 年度研究大会	福岡県福岡市	2014年11月

【第 2 グループ「地域研究：グローバル化で複雑化する紛争の原因と発展力学をローカルな視点から分析」】

No.	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
6	本名純	「越境組織犯罪の脱安全保障化に向けて—東南アジアの人身取引対策にみる国家と市民社会のせめぎあい」	シンポジウム『21 世紀の政治と暴力～中東、アフリカ、アジア、中南米の事例から』	東京都文京区	2014年10月
7	本名純	「インドネシア 2014 年選挙とプラボウオの挑戦」	アジア政経学会西日本大会共通論題「現代アジアにおけるグローバル化と排他的ナショナリズム」	京都府京都市	2014年11月
8	本名純	「インドネシア新政権の外交ビジョンとインド太平洋」	JIIA シンポジウム『インド太平洋時代の日本外交』	東京都千代田区	2015年2月
9	本名純	「インドネシアにおける民主化後の政治秩序：権力と利権の再編メカニズム」	日本比較政治学会 201 年度研究大会、分科会 D「民主化革命後の比較政治」	東京都千代田区	2015年6月
10	本名純	“Indonesia’s National Police and Community Policing: Between Reform and Politics,”	Community Policing in Southeast Asia	京都府京都市	2016年5月
11	本名純	「インドネシア・ジョコウィ政権の海上国境管理と海洋安全保障」	東南アジア島嶼部における国境管理レジームと地域社会の変容研究会	東京都港区	2016年7月
12	本名純	「インドネシアにおけるイスラム国家(IS)の衝撃」	外務省第3回国際協力事業安全対策会議	東京都千代田区	2016年7月
13	本名純	“Problems of Peacebuilding in Aceh, Indonesia,”	GRM International Conference 2016 “Conflicts and Peacebuilding: Toward the Sustainable Society”	京都府京都市	2016年7月
14	本名純	「2016 年インドネシアの海洋安全保障情勢」	国際問題研究所	東京都千代田区	2016年11月
15	本名純	「インドネシア・ジョコウィ政権下の政治～評価と課題」	JAC-NNA20 周年セミナー	東京都千代田区	2016年12月
16	Jun Honna	Bringing Human Back In: Maritime Non-Traditional Security Issues in Southeast Asia	Seminar Series on Non-Traditional Security Threats: Issues and Countermeasures	京都府京都市	2016年12月
17	末近浩太	Strategies, Dynamics, and Outcomes of Hizballah’s Military Intervention in the Syrian Conflict	International Conference on “Reconstructing State Security and National Integration in the Middle East”	京都市,日本	2017年1月
18	末近浩太	“The “Resistance Axis” and Its Implication for the Post-Arab Spring Middle East Regional (Dis)order,”	日本中東学会第 30 回年次大会	埼玉県川越市	2014年5月
19	末近浩太	“The “Resistance Axis” and the Post-Arab Spring Middle East Regional (Dis)order”	“Iran, America, and Islamic State-Emerging Security Challenges in the Middle East: Views from Iran, ”	京都府京都市	2015年2月
20	末近浩太	『中東政治は「宗派対立」を乗り越えることができるのか：「アラブの春」から「イスラーム国」へ』	日本中東学会第 31 回公開シンポジウム	京都府京都市	2015年5月
21	末近浩太	『「現代シリアの国家変容とイスラーム」再訪：シリア紛争とメルトダウンする中東政治』	NIHU プログラム現代中東地域研究・京都大学拠点「イスラーム中道派研究班」・科学研究費補助金基盤研究A	京都府京都市	2016年11月

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

			「グローバル化時代に対応する 21 世紀型イスラーム学の構築」研究会		
22	末近浩太	「シリア紛争と関係各国の動向」	財団法人世界政経調査会・国際情勢研究所・研究会	東京都港区	2016 年 12 月
23	末近浩太	「なぜ「帰結」なのか？：社会運動を説明する、社会運動で説明する」	科学研究費補助金・基盤研究(B)(海外学術調査)「現代中東におけるイスラーム主義運動の動向と政治的帰結に関する比較理論研究」シンポジウム「イスラーム主義運動は中東政治に何をもたらしたのか：民主化・独裁・内戦」	京都府京都市	2017 年 1 月
24	末近浩太	「レバノン・ヒズブッラーによるシリア紛争への軍事介入」科学研究費補助金・基盤研究(B)(海外学術調査)「現代中東におけるイスラーム主義運動の動向と政治的帰結に関する比較理論研究」	シンポジウム「イスラーム主義運動は中東政治に何をもたらしたのか：民主化・独裁・内戦」	京都府京都市	2017 年 1 月
25	末近浩太	「中東政治研究における「宗派」をめぐる「方法論」と「認識論」：レバノンとシリアを中心に」科学研究費補助金基盤研究 A	「宗教の政治化と政治の宗教化：現代中東の宗派対立における社会的要因と国際政治の影響」研究会	京都府京都市	2017 年 2 月
26	末近浩太	「21 世紀の国際関係における崩壊国家を再考する：「グローバル関係学」の構築に向けて」科学研究費補助金・新学術領域研究(研究領域提案型)	「越境的非国家ネットワーク：国家破壊と紛争」研究会	東京都千代田区	2017 年 2 月
27	勝村誠	「『人民戦線』と中西伊之助一敗戦直後の日本共産党再建をめぐる一断面」、 「西欧中心主義批判と東アジアの過去・現在」	第 2 回立命館大学コア研究センター・西江大学社会科学研究所共同研究会	京都府京都市	2015 年 2 月
28	勝村誠	「現代日本における「近代」治安維持法」	治安維持法制定 90 年国際シンポジウム「治安維持法制定から 90 年、植民地朝鮮・戦前日本から現代を問う」	京都府京都市	2015 年 10 月
29	勝村誠	「東アジア歴史認識問題の焦点としての安重根－ハルビン安重根義士記念館をめぐる日本政治の対応を手がかりに－」	国際学術会議「安重根『東洋平和論』と日韓歴史認識の国境越え」	京都府京都市	2015 年 11 月
30	石川亮太	「開港期朝鮮華僑への視角－1883 年徳興号事件から見た華商の移動と国際秩序－」	神戸華僑華人研究会、第 150 回研究例会	兵庫県神戸市	2014 年 5 月
31	石川亮太	「明治期の釜山水産会社について」	科学研究費補助金「東アジアにおける中国海産物市場の形成とアイヌ社会」研究会	新潟県新潟市	2014 年 10 月

【第 3 グループ「成熟社会：相互理解のパラダイム構築」】

No.	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
32	金丸裕一	「基督者としての矢内原忠雄から見た台湾」	台湾理解を見直すためのワークショップ	京都府京都市	2014 年 11 月
33	金丸裕一	「1920 年代における矢内原忠雄の社会科学と信仰 ―果たして実証可能な議論なのか？―」	第五回東アジアキリスト教交流史ワークショップ	名古屋市昭和区	2015 年 1 月
34	金丸裕一	中国における賀川豊彦評価をめぐって	中華圏プロテスタント研究会 第 12 回研究会	大阪府茨木市	2016 年 7 月
35	金丸裕一	日中戦争時期所談論的中国－神職人員眼中的他者鏡像	復旦大学中華文明国際研究中心訪問学者工作坊第三十三期 近代東亜国際視閥下の基督教教育與文化認同工作坊	中華人民共和国上海	2016 年 9 月
36	鄭雅英	トランスナショナルな在外同胞生活史－渡日済州島人と中国朝鮮族を中心に	統一人文学世界フォーラム 2014	小平市, 東京	2014 年 11 月

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

37	庵途由香	日本における日本軍「慰安婦」問題の現況と課題	2014 年韓国社会学会大会シンポジウム	小平市, 東京	2014 年 12 月
38	庵途由香	「朝鮮軍連隊資料について」	戦時期朝鮮社会の諸相研究会	京都府京都市	2015 年 1 月
39	金山勉	変貌をとげる日韓のメディア状況: 環境変化の中で浮かびあがる課題を国際メディア比較研究の観点から概観する	Korea-Japan Joint Seminar: Similarities and Differences in Media Use of Korean and Japanese Adolescents	新宿, 東京	2016 年 10 月
40	秋葉武	「韓国の社会的企業と社会的経済—ミクロ・メゾからマクロへ—」	日本 NPO 学会第 16 回年次大会	大阪府吹田市	2015 年 3 月
41	秋葉武	「トラック共済における組合員参加」	共済理論研究会		2016 年 3 月
42	秋葉武・森類臣	「韓国の社会的経済と協同組合」	日本 NPO 学会第 18 回年次大会	京都府京都市	2016 年 3 月
43	秋葉武	「管理会計に基づく NPO の経営基盤強化—委託事業から自主事業へ—」	日本 NPO 学会第 18 回年次大会	京都府京都市	2016 年 3 月
44	秋葉武	「協同組合としてのトラック共済—その生成と展開」	共済理論研究会	東京都新宿区	2017 年 02 月

【第 4 グループ「政策研究: 国際平和協力にかかわる政策の分析・評価・提言」】

No.	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
45	松田正彦	「ポスト軍政期の農村・農村開発」	日本貿易振興機構アジア経済研究所・研究会「ポスト軍政期のミャンマー」	千葉県千葉市	2014 年 11 月
46	松田正彦	“Rural Livelihood Systems Facing Normal Ecological Hazards in The Central Dry Zone of Myanmar.”	Consortium for Southeast Asian Studies in Asia (SEASIA 2015)	京都府京都市	2015 年 12 月
47	松田正彦	「鳥瞰東南アジア、虫瞰ミャンマー: アフリカの在来農業革命によせて」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・共同利用・共同研究課題「アフリカ農業・農村社会史の再構築: 在来農業革命の視点から」	京都府京都市	2016 年 12 月

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
<既に実施しているもの>

一般にまで広く開かれた研究会やシンポジウムは、3 年の間で計 135 件。各チームが定例で行った研究会に関しては、原則学内におけるアナログ広報(看板での告知やチラシの配布・掲示)を原則行っている。加え、以下 3 件の国際シンポジウムは、学内研究機構(立命館グローバル・イノベーション研究機構)と連動し、立命館グローバル・イノベーション研究機構の HP で告知。また、報告書を発行している。

- シンポジウム『「人間の安全保障」の行方—20 年の経験と課題から』日時: 2015 年 1 月 21 日(水)、22 日(木)
場所: 創思館カンファレンスルーム*1

<http://www.ritsumei.ac.jp/data.jsp?database=R161rgiroEvents&id=117>

- 国連創設 70 周年記念シンポジウム「新たなパートナーシップの形成を目指して—国連、NGO、大学間の連携」
日時: 2015 年 10 月 18 日(日)9:30~17:00、場所: 創思館カンファレンスルーム*2

<http://www.ritsumei.ac.jp/data.jsp?database=R161rgiroEvents&id=135>

- 国際シンポジウム「アジアにおける平和構築の取り組み—アジア的平和構築モデルはあるのか」日時: 2016 年 10 月 29 日(土)・30 日(日)、場所: 創思館カンファレンスルーム*3

<https://secure.ritsumei.ac.jp/data.jsp?database=R161rgiroEvents&id=154>

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

その他に開催している主な国際シンポジウムは以下の通りである。

- 国際シンポジウム「統一人文学世界フォーラム『東アジア人の記憶：痛みの変遷と共通の歴史』」日時：2016 年 12 月 17 日(土)、場所：創思館カンファレンスルーム

http://www.ricks2005.com/doc/contents_2016/20161214.pdf

- 国際シンポジウム『治安維持法制定 90 年国際シンポジウム「治安維持法制定から 90 年、植民地朝鮮・戦前日本から現代を問う』」日時：2015 年 10 月 11 日(日)、場所：創思館カンファレンスルーム

＜これから実施する予定のもの＞

該当なし

14 その他の研究成果等

＜受賞学術賞＞

【第 2 グループ「地域研究：グローバル化で複雑化する紛争の原因と発展力学をローカルな視点から分析」】

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	本名純	公益財団法人 大平正芳記念財団	第 31 回大平正芳記念賞	『民主化のパラドックス：インドネシアからみるアジア政治の深層』	2015 年 6 月
2	石川亮太	日本経済研究センター・日本経済新聞	第 59 回日経・経済図書文化賞	近代アジア市場と朝鮮	2016 年 11 月

＜書評＞

【第 2 グループ「地域研究：グローバル化で複雑化する紛争の原因と発展力学をローカルな視点から分析」】

No.	著者名	論文名	掲載誌名(巻)	担当頁	発表年月
1	末近浩太	読書案内 シリア・レバノンの政治と国際情勢	史と地理：世界史の研究 240 (676)	pp. 33-36	2014 年 8 月
2	石川亮太	「須永武徳編著『植民地台湾の経済基盤と産業』（日本経済評論社、2015 年）」	立教経済学研究(69:5)	pp.267-272	2016 年 3 月

【第 3 グループ「成熟社会：相互理解のパラダイム構築」】

No.	著者名	論文名	掲載誌名(巻)	担当頁	発表年月
3	金丸裕一	「『戦争は人間的な営みである』（並木書房、2012 年）」	国際平和ミュージアムだより (22:2)	p.10	2014 年 12 月
4	金丸裕一	「『境界史の構想』（『日本歴史私の最新講義』12）村井章介著（敬文社、2014 年 10 月刊）」	国際平和ミュージアムだより (23:2)	p.9	2015 年 12 月

＜翻訳＞

【第 2 グループ「地域研究：グローバル化で複雑化する紛争の原因と発展力学をローカルな視点から分析」】

No.	著者名	論文名	掲載誌名(巻)	担当頁	発表年月
1	勝村誠	韓国高校歴史教科書における東学農民運動の叙述の変遷	コリア研究(6)	pp.47-69	2015 年 3 月

＜報道発表＞

【第 1 グループ「国際関係：国際平和協力にかかわる主要概念の理論的再検討」】

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

No.	氏名	記事タイトル	掲載媒体名等	掲載日
1	足立研幾	オバマ広島訪問についてのインタビュー記事	京都新聞 朝刊第1面	2016年5月28日

【第2グループ「地域研究:グローバル化で複雑化する紛争の原因と発展力学をローカルな視点から分析」】

No.	氏名	記事タイトル	掲載媒体名等	掲載日
2	本名純	寄稿・ジョコウィ政権発足2年	じゃかるた新聞 1面	2016年10月21日
3	末近浩太	知を拓く 研究最前線1	京都新聞 文化面	2014年11月13日
4	末近浩太	イスラム偏見拡大懸念	京都新聞 総合社説面	2015年1月21日
5	末近浩太	死刑囚05年テロ 日本なら『オウム』	中日新聞 社会面	2015年1月27日
6	末近浩太	「日本は敵」認識拡大	京都新聞 総合面	2015年2月2日
7	末近浩太	強い対決色 選択肢狭い	中日新聞 国際面	2015年2月2日
8	末近浩太	政府にゆだんなかったか	西日本新聞 国際・総合面	2015年2月2日
9	末近浩太	イスラム教 偏見心配	中日新聞 社会面	2015年2月16日
10	末近浩太	ガンダムから考える中東政治と『相互理解』の尊さ	AERA (アエラ) No. 9	2015年3月2日
11	末近浩太	「帝国崩壊」の長い過程にある中東・イスラム圏と、どう向き合うか	日本再生 第433号	2015年6月1日
12	末近浩太	安保法制・私はこう考える:中東での信頼損ねる	毎日新聞 社会面	2015年6月9日
13	末近浩太	中東で民主主義が定着しない「本当の理由」:イスラームをめぐる2つの問題について(賢者の知恵)	現代ビジネス	2016年5月19日
14	末近浩太	ロンドン市民がカーン新市長誕生によって真に勝ち取ったもの(中東読解)	News Picks	2016年5月22日
15	末近浩太	イスラーム抵抗運動の登場、ハマースとヒズブッラー/イスラーム主義とは何か(第12回)	Yahoo! Japan ニュース	2016年5月24日
16	末近浩太	イスラーム過激派「第2世代」の登場、アル=カーイダ/イスラーム主義とは何か(第13回)	Yahoo! Japan ニュース	2016年6月30日
17	末近浩太	ISに感化 自発的犯行か	京都新聞 5面	2016年7月3日
18	末近浩太	ダッカ、ニース、ミュンヘン…「過激な通り魔」を安易に「ISのテロ」と認定することほど危険なことはない(賢者の知恵)	現代ビジネス	2016年7月25日
19	末近浩太	「アラブの春」とイスラーム政党/イスラーム主義とは何か(第15回)	Yahoo! Japan ニュース	2016年7月25日
20	末近浩太	ゼロからわかる「イスラーム国」が世界的な一大現象になるまで	現代ビジネス	2016年10月20日
21	末近浩太	トランプ勝利がムスリムに与える「3つの負の影響」	News Picks	2016年11月15日
22	末近浩太	なぜいま中東では「独裁の復活」が起こっているのか?	現代ビジネス	2016年12月26日

<講演会>

【第1グループ「国際関係:国際平和協力にかかわる主要概念の理論的再検討」】

No.	氏名	講演名	発表場所等	公演日
-----	----	-----	-------	-----

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

1	足立研幾	軍縮問題の見方・考え方	立命館大学土曜講座	2014年4月26日
2	足立研幾	報告, 「グローバルな規範の生成と伝播—規範ライフサイクルモデルを超えて—」	青山学院大学	2014年8月3日
3	足立研幾	討論者, Canadian Internationalism and Japan	The 39th Annual Conference of the Japanese Association for Canadian Studies, Kwansai Gakuin University	2014年10月4日
4	足立研幾	司会, 『「人間の安全保障」の行方—20年の経験と課題から』セッション1	立命館大学衣笠キャンパス	2015年1月21日
5	足立研幾	司会, シンポジウム『新たなパートナーシップの形成を目指して—国連, NGO, 大学間の連携』, パネル1「現場の知見を研究にどう生かすか」	立命館大学衣笠キャンパス	2015年10月18日
6	足立研幾	討論者, 国際政治学会関西例会	関西大学	2015年11月14日
7	足立研幾	司会兼討論, 国際安全保障学会, 分科会1「自由論題」	慶応義塾大学	2015年12月5日
8	足立研幾	セキュリティ・ガバナンス論の新地平—安全保障をめぐる政府と非政府主体の協働と競合	上智大学国際関係研究所	2016年5月20日

【第2グループ「地域研究:グローバル化で複雑化する紛争の原因と発展力学をローカルな視点から分析」】

No.	氏名	講演名	発表場所等	公演日
9	本名純	インドネシア大統領選挙と新政権の展望	国際情勢研究所	2014年4月25日
10	本名純	インドネシア大統領選挙の行方	大成建設国際支店	2014年6月18日
11	本名純	インドネシア大統領選挙の行方	丸紅インドネシア勉強会	2014年6月20日
12	本名純	グローバル化の影:新しい暴力と紛争の形	川崎市平和館	2014年6月21日
13	本名純	インドネシア:新政権の課題と展望	クラブ関西	2014年7月17日
14	本名純	大統領選挙の結果と今後の展望:ジョコウィ政権の船出は いかに?	日本インドネシア協会	2014年7月18日
15	本名純	「大統領選挙」2014年アジア 経済研究所夏期公開講座「イ ンドネシアはどこに向かうの か?:ユドヨノ政権の10年 と2014年の選挙」	JETRO	2014年8月21日
16	本名純	Facilitator for Session 4, Japan's Politics, Security and Diplomatic Policy	Indonesia-Japan Policy Forum 2014	2014年8月25日
17	本名純	インドネシア新政権における 政策運営・経済・外交関係の 見通し	日本総研・国際戦略研究所	2014年9月1日
18	本名純	インドネシアにおける 領海 ガバナンスの政治	長崎県対馬市役所本庁	2014年9月27日
19	本名純	報告, 「インドネシア新政権の 外交ビジョンとインド太平 洋」	国際問題研究所	2014年10月24日

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

20	本名純	インドネシア・ジョコウィ政権の課題	シンガポール時事トップセミナー	2014年10月30日
21	本名純	ジョコウィ政権の挑戦と展望	三菱東京UFJ銀行ジャカルタ支店主催講演会	2014年11月9日
22	本名純	司会、『人間の安全保障』の行方—20年の経験と課題から』セッション2	立命館大学衣笠キャンパス	2015年1月22日
23	本名純	ジョコウィ政権の100日	日経ジャカルタフォーラム	2015年1月28日
24	本名純	ジョコウィ政権の政治運営～発足半年後の評価と展望	日本インドネシア協会講演会	2015年5月22日
25	本名純	インドネシア2014年大統領選挙に見るソーシャルメディア	シンポジウム「インドネシアにおける広報活動のあり方」	2015年6月15日
26	本名純	なぜいまインドネシアの政治が熱いか	熊本インドネシア友好協会講演会	2015年10月15日
27	本名純	グローバル化の影としての越境犯罪を考える～東南アジアの森林破壊と人身取引の問題を中心に	九州大学フューチャーアジアプログラム	2015年11月13日
28	本名純	ジョコウィ政権1年にみる政治的綱渡り	三菱東京UFJ銀行ジャカルタ支店主催経済講演会	2015年11月17日
29	本名純	インドネシアにおける海洋安全保障政策	日本国際問題研究所	2015年12月14日
30	本名純	ジョコウィ政権の1年を振り返って～流動する権力関係	財団法人日本インドネシア協会	2015年12月17日
31	本名純	東南アジアの人身取引	立命館土曜講座	2016年7月2日
32	本名純	討論者、「部会7 インサージェンシーの地域比較」	日本国際政治学会創立60周年記念研究大会	2016年10月15日
33	本名純	3年目に入ったジョコウィ政権の政治～展望と課題	日本インドネシア協会	2016年12月20日
34	末近浩太	現代イスラーム主義組織のグローバル性：レバノン・ヒズブッラーの革命闘争	2014年度NIHU合同集会公開講演会	2014年10月18日
35	末近浩太	討論, GRM International Conference “ Preventing Collapse of the Middle East” GRM (Global Resource Management) Program	同志社大学	2015年1月28日
36	末近浩太	中東政治の今を考える：西洋化とイスラーム化のはざままで	朝日カルチャーセンター新宿校	2015年1月31日
37	末近浩太	中東情勢の見取り図：アラブの春、シリア内戦、イスラーム国	朝日カルチャーセンター京都校	2015年4月11日
38	末近浩太	激動の中東政治とイスラーム主義	尼崎市中小企業センター	2015年4月17日
39	末近浩太	討論, 人間文化研究機構第26回公開講演会・シンポジウム, 「苦悩する中東」	早稲田大学	2015年4月25日
40	末近浩太	「アラブの春」後の中東政治(激動の中東政治を読み解く：西洋化とイスラーム化のはざままで)	大阪府高齢者大学校	2015年6月19日
41	末近浩太	シリア「内戦」と「イスラーム国」(激動の中東政治を読み解く：西洋化とイスラーム化のはざままで)	大阪府高齢者大学校	2015年6月26日

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

42	末近浩太	「イスラーム復興の挑戦」(激動の中東政治を読み解く：西洋化とイスラーム化のはざままで)	大阪府高齢者大学校	2015年7月3日
43	末近浩太	「シリア内戦の4年間」非営利法人(NPO)パレスチナ子どものキャンペーン・講演と報告の会、「シリアで起きていること、私たちにできること」	大阪府立男女共同参画・青少年センター	2015年7月14日
44	末近浩太	司会者, Panel 2B, BRISMES Annual Conference 2016 “Networks: Connecting the Middle East through Time, Space and Cyberspace”	University of Wales	2016年7月14日
45	末近浩太	激動の中東情勢を読み解く：「アラブの春」から「イスラーム国」へ	朝日カルチャーセンター芦屋校	2015年7月25日
46	末近浩太	討論者, “Politics in a World of Inequality”	IPSA 24th World Congress of Political Science	2016年7月26日
47	末近浩太	シリア問題の見取り図：民主化・内戦・テロ・難民	時事トップセミナー	2016年3月7日
48	末近浩太	混迷する中東情勢：イスラーム・テロリズム・難民	茨木シニアカレッジ	2016年12月4日
49	末近浩太	欧州におけるテロリズムと移民・難民問題	朝日カルチャーセンター中之島校	2017年1月21日

【第3グループ「成熟社会：相互理解のパラダイム構築」】

No.	氏名	講演名	発表場所等	公演日
50	金山勉	Living beyond Boundaries Japan and South Korea: Citizens Building the Future	NHK World	2014年9月21日

【第4グループ「政策研究：国際平和協力にかかわる政策の分析・評価・提言」】

No.	氏名	講演名	発表場所等	開催日
51	石原直紀	司会, 『「人間の安全保障」の行方—20年の経験と課題から』セッション4	立命館大学衣笠キャンパス	2015年1月22日
52	石原直紀	司会, Workshop 「Asian Security Orders: Hegemony, Balancing or Security Pluralism?」	立命館大学衣笠キャンパス	2016年5月26日
53	松田正彦	司会, 『「人間の安全保障」の行方—20年の経験と課題から』セッション3	立命館大学衣笠キャンパス	2015年1月22日

法人番号	261013
プロジェクト番号	S1412002

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

該当なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

該当なし